教育　おおらか・さわやか・きわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課　☎476-1111(410)

○中学校	大崎町	県	全国
「授業で、生徒の間で話し合う活動をよく行っている」と答えた生徒	66	39	39
「友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えた生徒	71	57	59
「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒	60	48	45
「家の人と将来のことについて話すことがある」と答えた生徒	26	21	17
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた生徒	31	25	17
「人が困っているときに進んで助けている」と答えた生徒	52	35	36
「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」と答えた生徒	16	16	20
「将来外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしたい」と答えた生徒	13	13	16

【学習状況調査結果考察】

「人が困っているときに進んで助けている」「人の役に立ちたい」「今住んでいる地域の行事に参加している」といった回答が県や全国と比べて高く、大崎の子どもたちの思いやりの深さを感じます。また、学習では、自分の意見を発表したり友達の意見を聞いたりする活動にも積極的な様子が伺えます。

一方、失敗を恐れずに物事に取り組んだり最後までやり遂げたりする成功体験は、若干低いように思われます。子どもたちが自己肯定感をもち、何事にも自信をもって頑張れるようになるためには、家族とのコミュニケーションが重要です。学校からは、子どもたちの活躍を学校便りや学級通信、学校ホームページなどで発信していきます。家庭では、頑張っている子どもたちの声にじっくり耳を傾け励ますことが、よりよい成長につながると考えます。今後も子どもたちの成長を見守ってくださいますようよろしくお願いします。

まなびの窓 おしえの庭

『子育てのゴールは「大人にする」こと』

No.45　県立志布志高等学校　校長　竹井　俊久

この町で生まれ、菱田小・中、志布志高校を経て、県外の大学へと進学し、本県の教職に就いた。縁あって母校に奉職し２年目を迎えている。故郷で働ける日々に感謝する毎日である。

志布志高校生は明るく素直で純朴であり、生徒指導問題などは一切なく、いじめ問題もない。これも各家庭でのしつけの賜物と心から感謝している。

生徒たちは学舎を巣立ち、上級学校へ進学していく。私たちは彼らをどのような人間に仕上げて社会へ送り出せばよいのか。この視点を、幼小中・家庭・地域でも共有していきたい。

私は日頃生徒たちに「真剣に高校生活を送りなさい」と繰り返し訴えている。その真意は、少しでも「大人」に近づけて卒業させたいからである。では、「大人」とは何か。私なりに「相手の立場で物事を考えられる人間」「自分の命も他人の命も守れる人間」が「大人」であると考えている。

生徒たちには、勉強や部活動、学校行事などに真剣に取り組む中でたくさんの失敗体験を積んでもらいたい。失敗や挫折から学ぶことは多く、それらを乗り越えた者は精神的に強くなり、視野が広くなる。そして、何かを行う際に、徐々に相手の立場で物事を考えて判断できるようになる。

過去の経験から、難関大学などに合格した生徒は「大人になれた生徒」である。一見関係がないように思えるが、入試においても出題者の意図や狙いを察することが大切で、相手の立場に立ったものの見方ができるかどうかが鍵となる。自己中心的で独りよがりの回答では子どものままなのである。

家庭や地域においても、親や周りの大人が子どもたちを「大人」に近づけるために「真剣」に子育てをしてほしい。そして、その「大人」たちがこの素晴らしい故郷にまた戻ってくることを願っている。